

現代の貧困を考える

—大阪・釜ヶ崎からの発信—

貧困とは何か—ここ数年で「貧困」はおなじみの言葉となりました。しかし意外にリアリティのないものというのが本音、という方も少なくないのではないのでしょうか。社会福祉を学ぶ者にとって、それぞれの探求するテーマを考える前提として、今一度「現代の貧困」を、日本有数の日雇い労働者の街・釜ヶ崎における実践と研究のなかから問い直すことは、皆さんの今後の研究、ひいては生き方を考えるうえでも重要な示唆を与えるのではないのでしょうか。

今回のシンポジウムでは、釜ヶ崎をフィールドとする三人のシンポジストからの労働者支援の現状と課題、地域への包摂、新たな街づくりへの取り組みなどの提起をとおして、今後の社会福祉のあり方について考えていくことを目的としています。

そのため、シンポジウムを一般にも開放し、貧困問題や釜ヶ崎への理解を広く求めていきたいと考えています。

シンポジウムへの参加は無料で、当日の飛び込み参加も可能です。買い物の途中、デートの寄り道でも結構です。本物の貧困に触れて、本物の社会福祉を考えてみませんか？
事前の勉強も、専門的な知識も必要ありません！お気軽に会場までお越しください。

2011年2月20日(日)14:00~17:00

龍谷大学 大阪梅田キャンパス 研修室

(大阪市北区梅田2-2-2、ヒルトンプラザウエストオフィスタワー14階)

※ JR大阪駅桜橋出口徒歩4分、大阪市営地下鉄四つ橋線西梅田駅三番出口すぐ

コーディネーター： 大友信勝氏（龍谷大学社会学部臨床福祉学科教授）
シンポジスト： 海老一郎氏（財団法人西成労働福祉センター職員）
ありむら潜氏（漫画家・釜ヶ崎のまち再生フォーラム事務局長）
加美嘉史氏（佛教大学社会学部社会福祉学科准教授）

たくさんの方のご参加お待ちしております！

《問い合わせ先》

龍谷大学大学院博士後期課程 かど 道子 c08d002@mail.ryukoku.ac.jp